京都大学総合博物館 2023年度企画展 文化財発掘X
『比叡山麓の縄文世界』関連講演会第1回

2024年4月27日@京都大学総合博物館

比叡山東麓の縄文遺跡
ー大津市域の集落動向ー

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
企画整理課　主幹　小島孝修
（Kojima Takanobu）

1

1. はじめに①

今日のお話のあらまし

【目的】大津市域にある縄文遺跡の集落動向を明らかにする。

作業①：調査報告書などを渉猟して当該期の活動痕跡（遺構・遺物）を集め、空間的分布と時間的分布の傾向を把握。

作業②：中心となる遺跡の調査成果について各時期の状況を踏まえつつ紹介。

【結論】大津市域の縄文時代の集落は、当初は琵琶湖岸を中心に展開するが、のちに比叡山東南麓の扇状地に中心に展開する。

2

石山貝塚(早期)

粟津湖底遺跡(中期)

穴太遺跡（後期）

滋賀里遺跡（晩期）

大津市域の中心となる遺跡

3

1. はじめに②

私について

- 出身は信州伊那谷
  中央アルプスと南アルプスの間に天竜川による河岸段丘が発達、縄文遺跡・古墳が多い地域
- 京都にある大学に進学、滋賀県で就職
- 本職は遺跡（埋蔵文化財）の発掘調査員
  本務先は(公財)滋賀県文化財保護協会
  勤務地は滋賀県立安土城考古博物館内整理場
- 現在おもに取り組む研究テーマは
  「関西地方における縄文時代の文化・社会」

4

1. はじめに③

そもそも縄文時代とは

- 「縄文時代」は、おおむね日本列島において「縄文土器」を製作・使用した新石器時代。
- 約15,000年前～約2,400年前に継続
- 狩猟・漁労・採集が生業のベース、一部に農耕・栽培があったとも。
- 遺跡の数・質ともに東日本が卓越、西日本（とくに関西）は少ない。
- 日本列島で画一的な「縄文文化」が広がっていたのではなく、各時期に存在した地域性の高い複数の文化圏の集合体が「縄文文化」。

5

1. はじめに④

大津市の位置・地勢

- 滋賀県域の南西端に位置する県庁所在地、京都市が西接、水上交通を通じてのかつての都への東・北からの玄関口。
- 比叡山東麓の琵琶湖岸に小規模な扇状地が連なる北西部（旧志賀郡）と鈴鹿山脈に続く丘陵が広がる南東部（旧栗太郡の一部）を、琵琶湖から唯一流れ出る瀬田川が隔てる。
- 近年開発事業も多く、縄文遺跡の発見が比較的多い地域。

6

2. 大津市域の縄文遺跡①

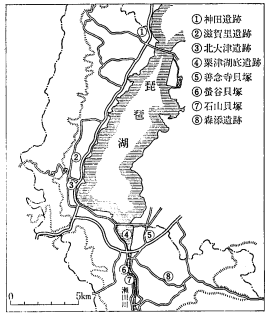


図10　大津市の縄文遺跡分布　湖南地域で縄文遺跡が集中しているのは、瀬田川流域である。この地域に縄文人が初めて住みついたのは石山で、以後、粟津湖底・森添などの遺跡をのこしている。瀬田川は、縄文時代から交易路や生活の場として重要な位置にあったのであろう。

←大津市域で8遺跡だけ

→滋賀県域で16遺跡だけ

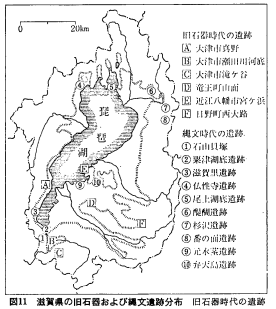


図11　滋賀県の旧石器および縄文遺跡分布　旧石器時代の遺跡はいずれも石器の地表採集によるものだが、その分布は大津と甲生部方面に限られている。一方、縄文遺跡の分布は、大津市付近、安土周辺、姉川・天野川流域に多く、他地域とはその密度に格段の差がある。とりわけ、安土地域は大中の湖などの内湖周辺、湖北では山間部に集中しており、前者には漁撈中心の、後者には狩猟中心の村落が形成されていたものであろう。

『新修大津市史第1巻』（1978）の縄文遺跡分布図

7

2. 大津市域の縄文遺跡②

作業①：現在見つかっている縄文時代の痕跡を集めて分布の傾向を把握する。

- 発掘調査報告書を中心に以下の条件で集める。

① 小島2001をベースに、公刊された文献に掲載されている資料に限って集める。

② 縄文土器が1点でも出土していれば対象とする
⇒当たり前だが「古いものほど残りにくい」

③ 時期比定が難しい石器のみの場合は割愛。

④ 実態が不明瞭な遺跡は扱わない。

⑤ 後期旧石器時代・弥生時代前期も対象にする。

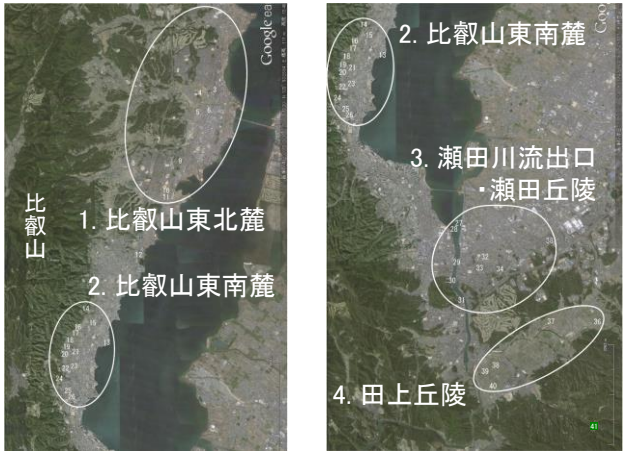
8

2. 大津市域の縄文遺跡③

縄文遺跡を集めてならべてみた結果

- 現在大津市域で縄文時代の活動痕跡(遺構・遺物)が見つかっているのは**42遺跡**(表1、後期旧石器時代の遺物のみが見つかっている3遺跡を含む)。
- この42遺跡という数字は、滋賀県域の縄文遺跡約400箇所のうちの約11%(ちなみに滋賀県域の遺跡数(埋蔵文化財包蔵地)は約4,600箇所)、大津市域に所在する遺跡約390箇所のうちの10.8%。

9



大津市域の縄文遺跡の分布(左:北部、右:南部)11

3. 大津市域の4地域の縄文遺跡群

集めた縄文遺跡を地域ごとにまとめる

- 42遺跡の多くは後世の遺構などから少数の遺物が見つかったもの。遺構を伴うしっかりとした活動痕跡が多数見つかった遺跡は数える程度。
- 地図に位置を落としてみると、おおむね4地域程度にまとめることができる。
  1. 比叡山東北麓
  2. 比叡山東南麓
  3. 瀬田川流出口・瀬田丘陵
  4. 田上丘陵

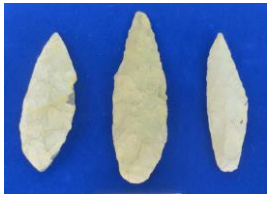
10

1. 比叡山東北麓の縄文遺跡

- 2.中畑田遺跡～11.雄琴出口遺跡の10遺跡。
- 湖岸から3km以内の段丘や山地・丘陵に立地、後期旧石器時代から後期中葉まで存続。
- 明確な活動痕跡が認められる遺跡は少なく、全般的に状況は不明瞭。
- 3.真野遺跡では埋没谷から早期中葉の土器のほか異形局部磨製石器(トロトロ石器)や旧石器時代の黒曜石製細石刃核などが出土。
- 7.上仰木天神山遺跡では川跡から後期前葉の遺物がまとまって出土。

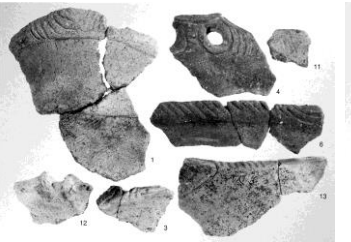
12

3.真野遺跡の異形局部磨製石器と細石刃核



10.雄琴段々遺跡の縄文土器と尖頭器

13



7.下仰木天神山遺跡
の縄文土器

8.上仰木遺跡の
落穴状遺構

14

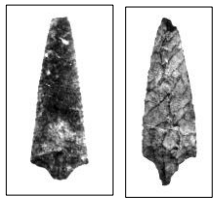
2. 比叡山東南麓の縄文遺跡

- 13.唐崎遺跡～26.北大津遺跡の14遺跡。
- 琵琶湖岸の唐崎遺跡は長期間の遺物散布地。
- そのほかは、いずれも湖岸から1.4kmまでの扇状地および山地・丘陵地に立地（図2）。
- 草創期から弥生時代前期まで長期にわたって継続、中心となるのは 15.穴太遺跡(後期)と21.滋賀里遺跡(晩期)。滋賀里遺跡以南では弥生時代前期の活動痕跡が多い。
- 比叡山を挟んだ南西麓には約6kmの距離を挟んで北白川遺跡群が広がる。

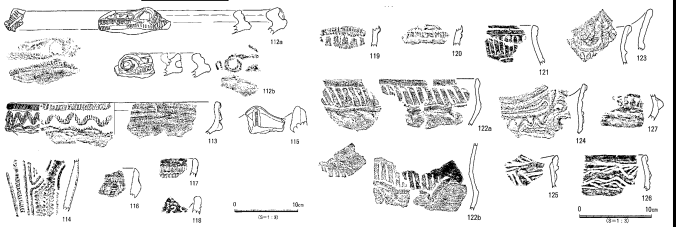
15

琵琶湖対岸から見た比叡山とその東南麓の扇状地

16



16.大谷遺跡(左)・17.大谷南遺跡
出土の有舌(茎)尖頭器
(ともに長さ約7.0cm)



中部高地系(勝坂式)　東海系(山田平式)

26.北大津遺跡から出土した他地域の土器

17

3. 瀬田川流出口・瀬田丘陵の縄文遺跡

- 27.大江湖底遺跡～35.大池遺跡の9遺跡(図3)。
- 瀬田川流出口の湖底・湖岸近接地に立地する6遺跡はおおむね後期旧石器時代から晩期後半まで長期にわたって継続するが、中期後葉以降は低調傾向。
- 中心となるのは31.石山遺跡(早期)と28.粟津湖底遺跡(中期)。
- 丘陵に位置する4遺跡からは比較的古い時期の後期旧石器時代・草創期の石器が出土。

18

調査風景

土器片錘

ニホンジカの角

ナマズの骨

条痕文土器

30.蛍谷遺跡の調査地とみつかったもの

19

琵琶湖湖底・湖岸の縄文遺跡

- 琵琶湖湖底・湖岸遺跡の約半分(50箇所)が縄文遺跡。湖底化の原理はよくわかっていない。
- 瀬田川流出口は琵琶湖と丘陵が接する食糧確保に有効な地形。
- 同様の地形を持つ入江内湖・松原内湖、大中の湖・小中の湖の内湖(潟)地形でも、縄文遺跡が多く立地。

20

入江内湖遺跡

松原内湖遺跡

安土弁天島遺跡

竜ケ崎A遺跡

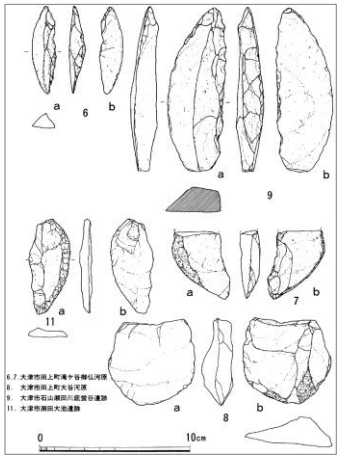
琵琶湖岸の代表的な縄文遺跡

21

4. 田上丘陵の縄文遺跡

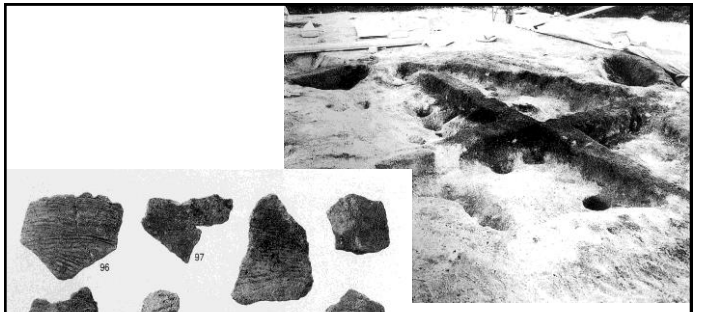
- 36.上田上牧遺跡～40関津遺跡の5遺跡、いずれも谷底平野に立地。
- 上田上牧遺跡の早期後葉の竪穴住居は、滋賀県内では時期的に発見事例がほとんどない。関津遺跡では比較的多くの活動痕跡が発見されている
- ただし明確な活動痕跡は少なく、全般的に状況は不明瞭。

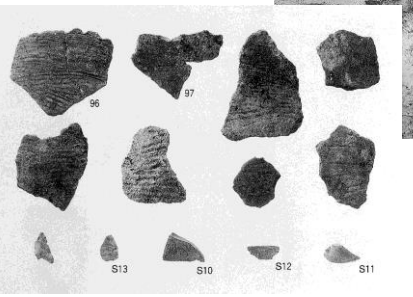
22



瀬田丘陵・田上丘陵の後期旧石器・縄文草創期の石器

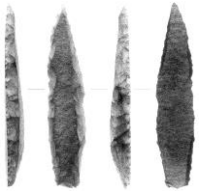
23





36.上田上牧遺跡の竪穴建物とみつかったもの

24



角錐状石器
(旧石器時代)

土器棺墓
(晩期後葉)

土器棺墓(後期後葉)

落穴状遺構(後期)

40.関津遺跡でみつかったもの

25

4. 大津市域の中心となる縄文遺跡

大津市域の縄文遺跡を集めてみてわかったこと

- 大津市域の縄文遺跡は4地域に分布が集中、うち活動痕跡が豊富に見つかっているのは
  - 2. 比叡山東南麓
  - 3. 瀬田川流出口・瀬田丘陵
- このうちのとくに

  31.石山貝塚(早期)　28.粟津湖底遺跡(中期)

  15.穴太遺跡(後期)　21.滋賀里遺跡(晩期)

  では、多くの活動痕跡が見つかっている。
- 続いて全体の動向も踏まえつつ、各遺跡から見つかったものを個別に詳しくみていく作業②へ。

26

31. 石山貝塚

- 昭和15年(1940)に小野忠熙師氏により発見。
- 昭和25～29年に坪井清足氏が指導する平安高校考古学クラブが発掘調査を実施、小規模な調査ながらも早期後葉の多数の遺構・遺物を発見
- セタシジミを主体とする貝塚には多くの土器・石器だけでなく獣(シカ・イノシシなど)や魚(コイ・ナマズなど)の骨といった食糧残滓、骨角製・貝製の道具や装飾品も。
- そのほか貝層中で4体の埋葬人骨と13基の集石炉もあった。

石山貝塚の現状

27

貝層の
剥ぎ取り

貝殻条痕文土器

ヤカドツノガイ製首飾

埋葬人骨

集石炉

石山貝塚でみつかったもの

28

湖岸への進出と水産資源の利用

- 旧石器時代の遺跡は県内では未発見、草創期の集落は山間部の相谷熊原遺跡(東近江市)のみ、早期前葉の遺構は粟津湖底遺跡のクリ塚のみ。
- 早期後葉に石山貝塚をはじめ東海系貝殻条痕文土器を持つ多くの集落が湖岸に立地、水産食糧資源(コイ・フナやセタシジミ等)を積極的に利用。

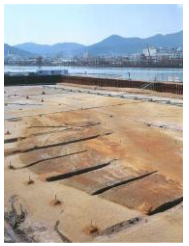
相谷熊原遺跡の竪穴建物と土偶　粟津湖底遺跡のクリ塚

29

28. 粟津湖底遺跡

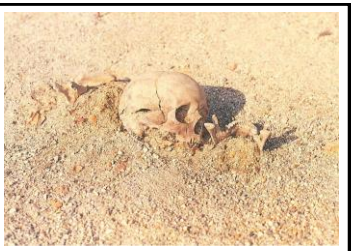
- 昭和27年(1952)、漁師の網に縄文土器が引っかかり発見、藤岡健二郎氏による調査・公表。
- 昭和55年、京都市埋蔵文化財研究所によるスキューバ・エアリフトを用いた調査で東西49m以上×南北95m以上の範囲を持つことが判明。
- 昭和62年、琵琶湖開発事業に伴って再び潜水調査が行われ、水面下2mに東西240m×南北320mの範囲を持ち、2つの大きな貝塚が判明。
- 平成2～3年、航路浚渫に伴う発掘調査を実施、鋼矢板を用いて湖底面を陸化する大規模調査。期せずして第3貝塚(中期前葉)を発見、「低湿地」の「貝塚」から様々な遺物が発見された。

30



粟津湖底遺跡の調査地と貝層

31

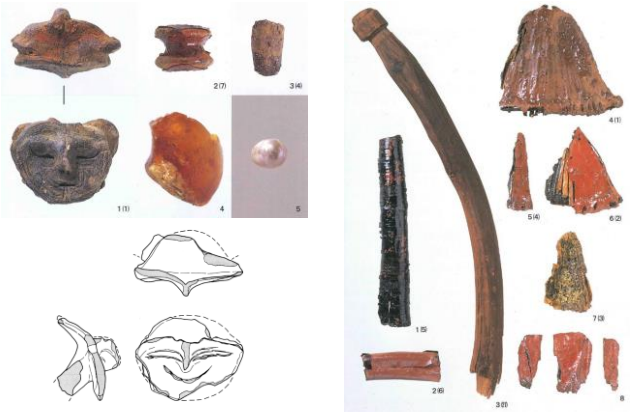


右上：人骨出土状況
左上：縄文土器出土状況

※縄文土器の出土比率は
関西系(左上)：7割
東海系(右上)：2割
北陸系(左下)：1割

粟津湖底遺跡第3貝塚でみつかったもの①

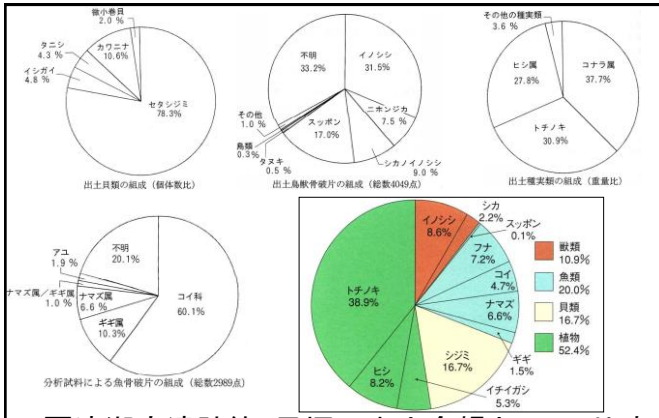
32



土偶と琥珀玉・真珠　　漆塗装身具など

粟津湖底遺跡第3貝塚でみつかったもの②

33



粟津湖底遺跡第3貝塚の出土食糧カロリー比率

※粟津第3貝塚発掘調査の成果の1つは、出土した各食糧残滓の可食重量を推定し、カロリー換算して比率を求めたこと。

34

15. 穴太遺跡

- 国道161号バイパス（湖西道路）建設に伴う調査（1981～1991）で発見、古代寺院などで知られるが縄文時代後・晩期の遺構・遺物を多数発見。
- 当該期の遺構・遺物は扇状地の堆積土下にあり、最も深いところで地表下4.0m（標高87.3m）。
- 豊富な伏流水により有機質遺物も多数残り、とくにイチイガシなどの巨大な根株は当時の景観を想定させる。晩期の土器棺墓も多数出土。
- 堅果類が入った低湿地型貯蔵穴は、滋賀県内では竜ヶ崎A遺跡（近江八幡市）や六反田遺跡（彦根市）でも見つかっていて、定住性を示す要素としても注目される。

35

根株　　石器デポ

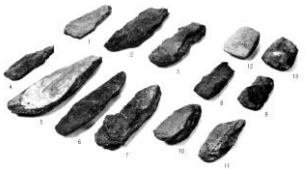
土器棺墓（晩期後葉）　　配石遺構（晩期後葉）

穴太遺跡でみつかった遺構

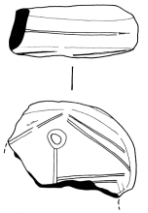
36

元住吉山式土器

石棒



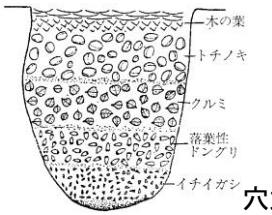
デポの石斧



土偶

穴太遺跡でみつかったもの

彦根市六反田遺跡

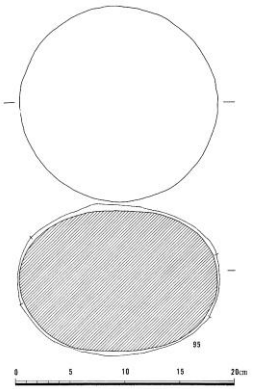


穴太遺跡

近江八幡市竜ヶ崎A遺跡

滋賀県内の貯蔵穴

丸石

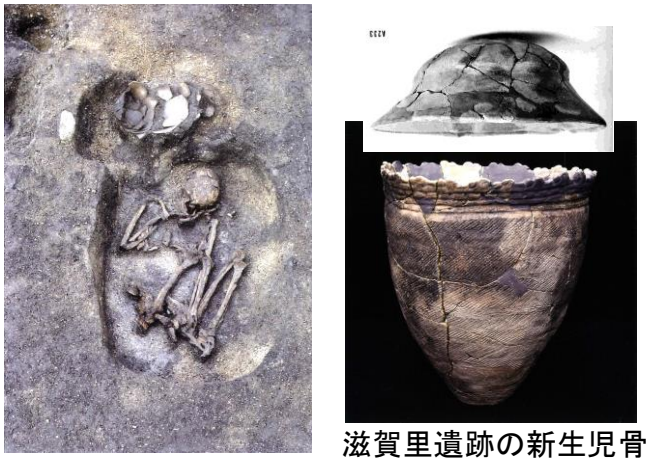


- 配石遺構（後期後葉）から、直径18.0cm前後・厚さ12.8cm・重さ6.0kgの「磨石」が出土。
- 「摩耗痕」があるというが、サイズ・重さからドングリを磨り潰すいわゆる磨石とは考えづらい。
- 彦根市六反田遺跡でも、同様の球形巨大礫が出土。
- 山梨県を中心に出土する「丸石」との関連性があるか。
- これら滋賀県出土の「丸石」について詳しくは拙稿を参照（当協会『紀要』29号掲載）。

21. 滋賀里遺跡

- 戦後の農地解放により地元民の耕作で遺物が露出、昭和23年（1948）に坪井清足氏の指揮で京都大学が発掘調査、遺物包含層から多数の遺物が出土。土器は「滋賀里式」の標式資料。
- 昭和46年、国鉄湖西線建設工事に伴う発掘調査で東西方向の扇状地上で晩期の墓地（土坑墓81基・土器棺墓25基）やその南北の解析谷で貝塚・遺物包含層を検出、多数の遺物が出土。
- 近年、都市計画道路建設などに伴って大津市教育委員会が上記隣接地で発掘調査を実施、同様に墓地・遺物包含層を検出、多数の遺物が出土（未公表）。

滋賀里遺跡の墓地と貝層 41



滋賀里遺跡の新生児骨が収められた255号土器棺墓と256号土坑墓 42

滋賀里遺跡（湖西線調査）でみつかったもの 43

滋賀里遺跡の汀線問題①

水色部分が湖水想定範囲

- 湖西線調査報告書では、遺跡が標高約95mに立地、「近世以降に湖岸線の大幅な後退があった」が、縄文時代には「湖水が現在の海抜90m付近にまで入り込んでいた」としている。
- 木製品や貝塚が出土した湿地帯の形成要因を琵琶湖に求めたと思われる。
- 現在の琵琶湖の汀線は標高約85m、対岸の草津市志那湖底遺跡などそれ以下で晩期の遺構が見つかっている事例も。 44

滋賀里遺跡の汀線問題②

「真野の入江」碑
（場所は図1参照）

- 縄文時代晩期の汀線が標高約90mとすると、琵琶湖岸の多くの平野部が水没
- これに対する解釈は2通り

① 湿地帯の形成要因を湖岸での立地以外に求める

② 局所的に湖西地域が5mほど隆起した。

- 参考として、中世に歌に詠まれた「真野の入江」碑は標高約90mの位置にある。

45

5. おわりに ～今日のお話のまとめ・結論～

- 大津市域では42箇所の遺跡から縄文時代（および後期旧石器時代）の活動痕跡が見つかっていて、それらはおおむね4地域にまとめられる。
- 石山遺跡(早期)・粟津湖底遺跡(中期)・穴太遺跡(後期)・滋賀里遺跡(晩期)は各時期の中心的集落と思われ、発掘調査で多数の活動痕跡を発見。
- 定住性を示す貝塚・貯蔵穴・住居・集石炉や墓（遺構）と、土器・石器のほか他地域からの搬入品や木製品、土偶や装飾品、食糧残滓などの豊富な遺物が、湿地などで良好に保存されていた。

【結論】 大津市域の縄文時代の集落は、当初は琵琶湖岸を中心に展開するが、のちに比叡山東南麓の扇状地に中心に展開する。

46

主要参考文献

- 関西縄文文化研究会2024『滋賀里遺跡と滋賀里式』発表要旨集
- 京都大学総合博物館2024『比叡山麓の縄文世界』
- 小島孝修2001「近江における縄文社会の展開過程に関する覚え書き－地域の検討6.湖西南部地域－」『紀要』第14号
- 滋賀県教育委員会1973『湖西線関係遺跡発掘調査報告書』
- 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会1994・1997『一般国道161号（西大津バイパス）建設に伴う 穴太遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ』
- 同1999『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3 粟津湖底遺跡(粟津湖底遺跡Ⅱ)』
- 安土城考古博物館2012『人・自然・祈り 共生の原点を探る』
- 同2018『収蔵品で語る城郭と考古一考古編一』
- 滋賀里資料研究会編2023『滋賀里遺跡資料図譜』真陽社
- 瀬口眞司2016『琵琶湖に眠る縄文文化 粟津湖底遺跡』新泉社
- 平安学園考古学クラブ1956『石山貝塚』

47

ご静聴ありがとうございました

粟津湖底遺跡第3貝塚出土土偶

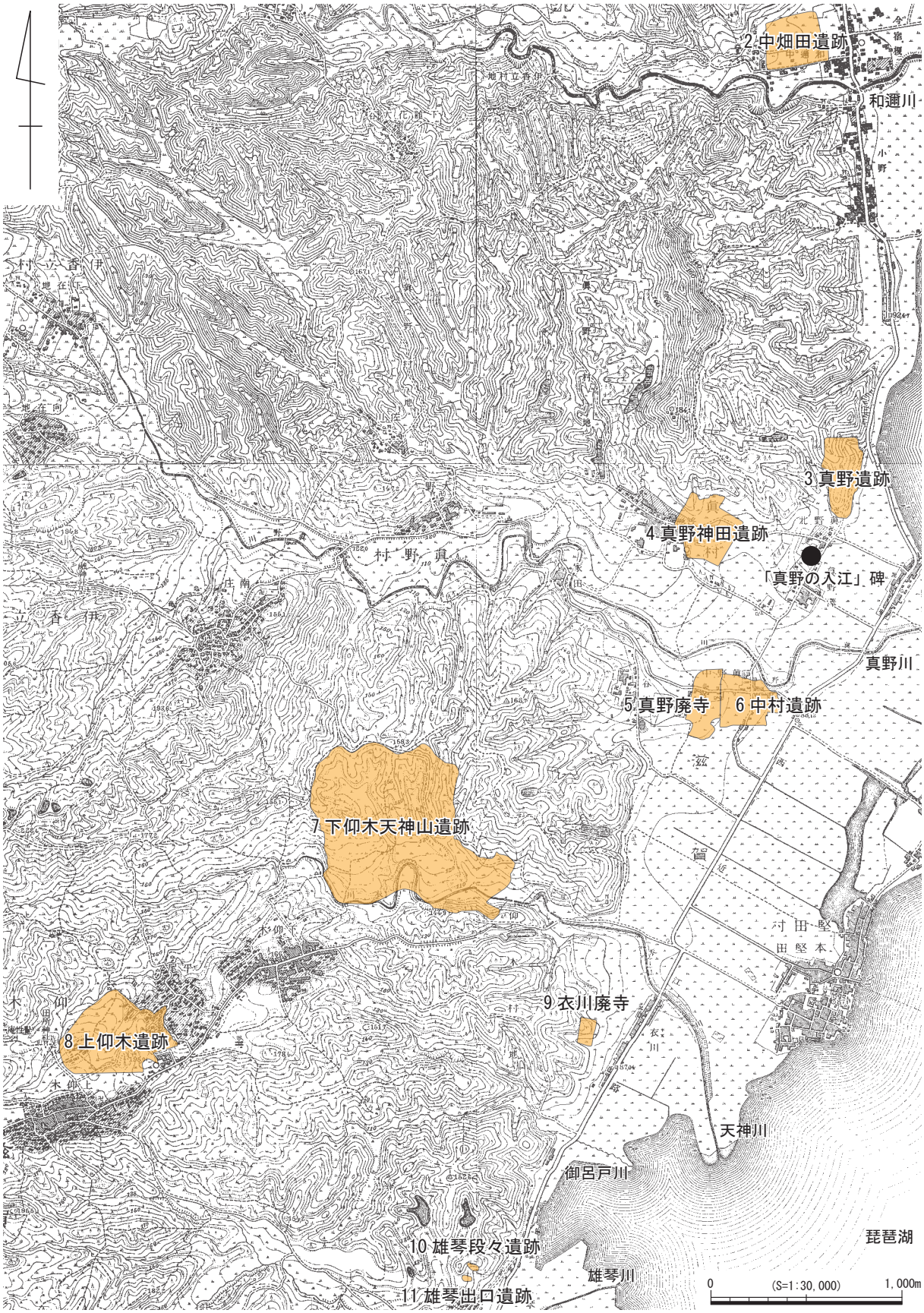
(Tel) 077-548-9780
(URL) http//www.shiga-bunkazai.jp
(E-mail) chosa@shiga-bunkazai.jp

48

群	No.	遺跡名	立地	後期 旧石器	縄文 草創期	縄文早期 前	縄文早期 中	縄文早期 後	縄文前期 前	縄文前期 中	縄文前期 後	縄文中期 前	縄文中期 中	縄文中期 後	縄文後期 前	縄文後期 中	縄文後期 後	縄文晩期 前	縄文晩期 中	縄文晩期 後	弥生前期 前半	弥生前期 後半	特記事項(祭祀・希少搬入品など)
	1	北小松古墳群	山地・丘陵		○																		
比叡山東北麓	2	中畑田遺跡	段丘	○			○							○									
	3	真野遺跡	山地・丘陵	○	○		◎					○											水晶製局部磨製石鏃・黒曜石(隠岐島産主体)・ヒスイ装飾品
	4	真野神田遺跡	段丘												○	○							
	5	真野廃寺	段丘												○								
	6	中村遺跡	段丘							○	○	○											
	7	下仰木天神山遺跡	段丘											○	○	○							
	8	上仰木遺跡	山地・丘陵																				落穴状遺構(時期不明)
	9	衣川廃寺跡	山地・丘陵				○																
	10	雄琴段々遺跡	山地・丘陵				○	○	○					○									
	11	雄琴出口遺跡	山地・丘陵											○									
	12	苗鹿遺跡	扇状地											○	○								
比叡山東南麓	13	唐崎遺跡	湖岸近接地					○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			
	14	穴太野添古墳群	山地・丘陵												○								
	15	**穴太遺跡**	扇状地									○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	関東系後期土器・土偶・岩偶・耳栓・石棒類・陰陽物形木製品(後・晩期)
	16	大谷遺跡	扇状地		○																		
	17	大谷南遺跡	扇状地		○																		
	18	小山古墳群	扇状地				○																
	19	北山田遺跡	扇状地					○				○	○	○		○							
	20	太鼓塚遺跡	扇状地					○	○							○				○			
	21	**滋賀里遺跡**	扇状地				○							○	○	○	○	◎	○	◎	○	○	関東系後期土器・北陸系晩期土器・東北系晩期土器、遮光器土偶・黒曜石・石棒類・ヒスイ勾玉・蛇紋岩勾玉・骨角髪飾・土製腕輪(晩期)
	22	橙木原遺跡	扇状地												○								
	23	南滋賀遺跡	扇状地											○						○	○	○	
	24	宇佐山古墳群	山地・丘陵				○													○		○	
	25	錦織遺跡	扇状地				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	独鈷石
	26	北大津遺跡	扇状地				○	○		○		○	○	○	○	○	○			○	○		
瀬田川流出口・瀬田丘陵	27	大江湖底遺跡	湖岸近接地			○			○					○	○			○	○	○			
	28	**粟津湖底遺跡**	湖岸近接地			○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○					○			土偶(中期)・イタボガキ(中期)・琥珀(中期)
	29	唐橋遺跡	湖岸近接地		○	○	○	○									○			○			
	30	蛍谷遺跡	湖岸近接地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					○			小貝塚・骨角器・動物遺存体
	31	**石山遺跡**	湖岸近接地				○	◎															石組炉・埋葬人骨5体・骨角製垂飾品
	32	大山遺跡	山地・丘陵		○																		
	33	中路遺跡	山地・丘陵	○																			
	34	惣山遺跡	山地・丘陵	○																			
	35	大池遺跡	山地・丘陵	○																			
田上丘陵	36	上田上牧遺跡	谷底平野					◎															
	37	森添遺跡	谷底平野																	○		○	
	38	里西遺跡	谷底平野															←		→			
	39	太子遺跡	谷底平野																◎				土器棺墓(晩期中葉)
	40	関津遺跡	谷底平野	○	○										○	◎	○	○		◎			土器棺墓(後期中葉・晩期後葉)、落穴(後期)
	41	田上山遺跡	山地・丘陵	○	○																		
	42	桐生辻遺跡	山地・丘陵					○															

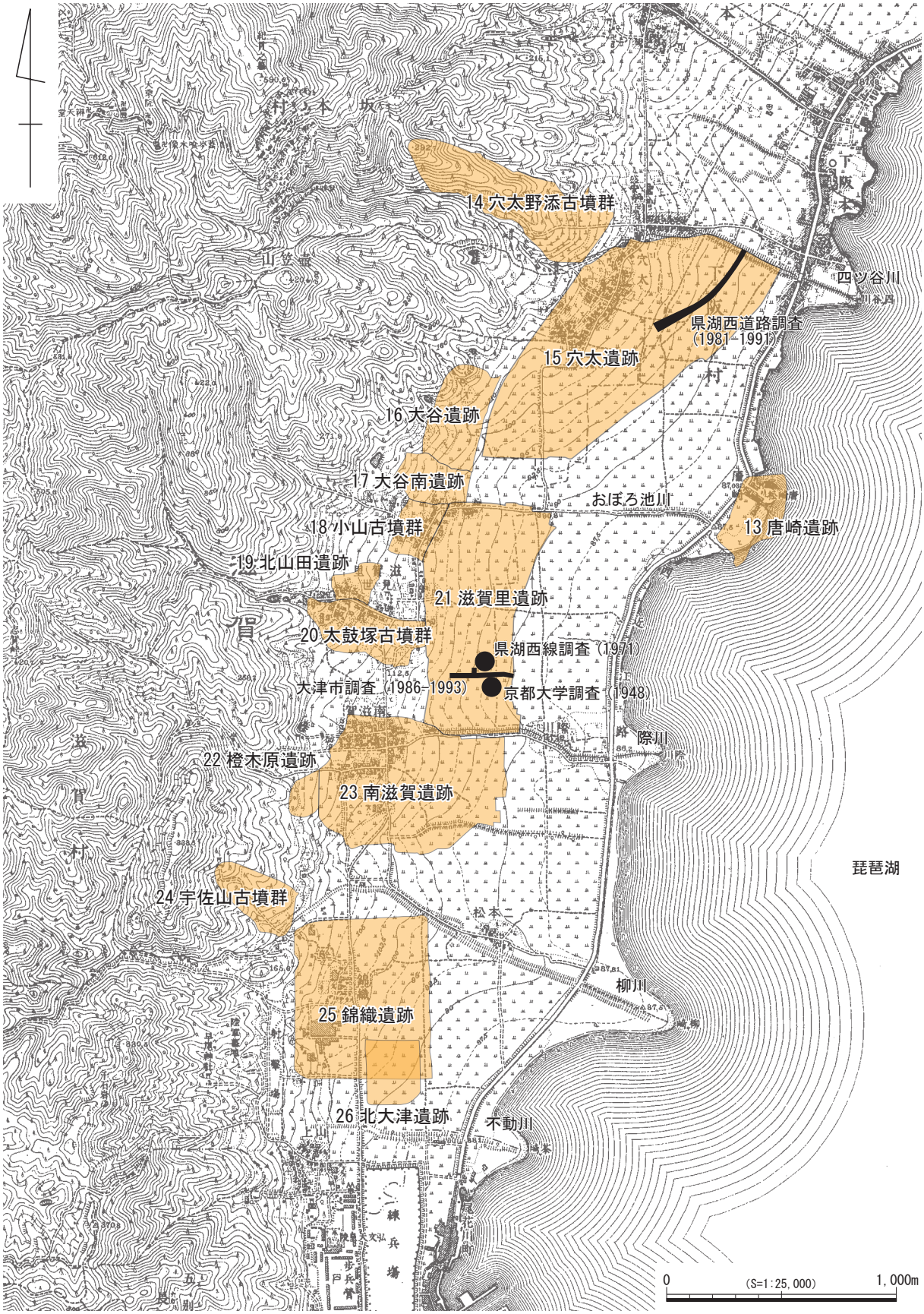
凡例 ○は活動痕跡を、◎は居住施設・埋葬施設・祭祀装置・希少性物資を、それぞれ示す。矢印は詳細な時期を限定できないことを示す。

表1 大津市域の縄文遺跡の消長



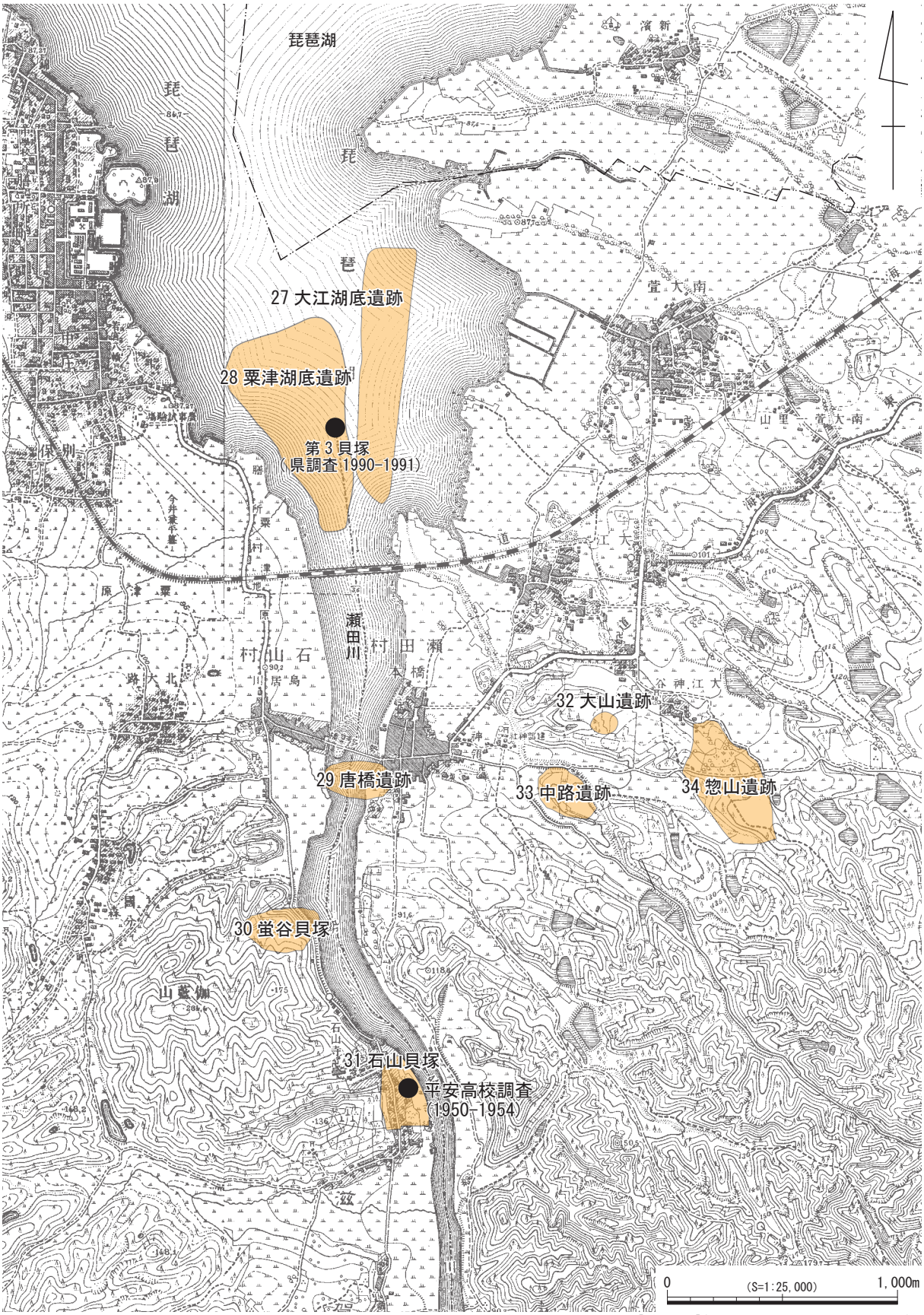
＊正式二万分の一地形図「伊香立」「和邇」「大原」「堅田」をベースマップとして作成。
各遺跡の範囲は滋賀県2022『令和3年 滋賀県遺跡地図』に典拠。

図１　比叡山東北麓の縄文遺跡



＊正式二万分の一地形図「大津」をベースマップとして作成。
各遺跡の範囲は滋賀県2022『令和3年 滋賀県遺跡地図』に典拠。

図 2　比叡山東南麓の縄文遺跡



＊正式二万分の一地形図「膳所」「瀬田」をベースマップとして作成。
各遺跡の範囲は滋賀県2022『令和3年 滋賀県遺跡地図』に典拠。

図 3　瀬田川流出口・瀬田丘陵の縄文遺跡